



終戦記念日を前にして

校長 井之上 良一

特攻隊（一般には、太平洋戦争末期に、戦死が前提の戦闘機等による体当たり攻撃を行った部隊）を題材とした小説は、映画でもヒットした『永遠の0（ゼロ）』（百田尚樹著）をはじめ多数存在します。そして、多くの作品が命の重さや戦争の不条理を問い、取り上げられた人物の言動や心情を通して強く心を揺る動かすものになっています。

中でも、城山三郎さんが晩年に書いたとされる『指揮官たちの特攻 — 幸福は花びらのごとく —』は、戦争と人間を克明に描き、哀切を極めた傑作といわれています。この作品を書き終えた後、城山さんは「書くべきことはすべて書いた。（中略）これがわたしの最後の作品となっても悔いはない。」という言葉を残しているそうです。この小説には、戦争の悲惨さと平和の尊さを自らの死をもって伝えた人として、関行男（せきゆきお）大尉と中津留達雄（なかつるたつお）大尉という海軍兵学校の同期生二人が登場します。

関大尉は最初の特攻隊長に任命され、フィリピンのレイテ沖海戦でアメリカの護衛空母を撃沈するなど、第一級の戦果を上げました。亡くなった後、「軍神」として讃えられた人です。有名な「神風特別攻撃隊」の名付け親とも言われています。

彼の隊の隊員の一人は、大分県の宇佐市にあった基地を出撃する前に冗談めかしてこう言ったそうです。「ぼくは天皇陛下とか、日本帝国のためとかで行くんじゃない。最愛のKA（家内）のために行くんだ。命令とあればやむを得ない。僕は彼女を守るために死ぬんだ。最愛の者のために死ぬ。どうだすばらしいだろう！」。冗談めかしてと書いてありますが、実はこれこそが本心だったと思われま。

また、もう一人の主人公中津留大尉は、戦争終結を告げる「玉音放送」の後、最後の特攻隊員として基地を飛び立ちます。先に死なせてしまった部下たちに対する自責の念からの行動だったのでしょうか。しかし、沖縄に置かれたアメリカ軍の基地を前にして、終戦が宣言されたことに思いを致し、わざと基地を避けて近くの岩礁に激突、自爆します。救われるはずの命だったのにもかかわらず・・・それは桜の花びらのごとく潔い散りざまですが、軍の上層部に対する抗議の死でもあったのです。

やがて今年も、広島、長崎の原爆忌（8月6日、9日）が、次いで15日には終戦記念日がやってきます。日頃、私たちは、将来の夢や希望を携えな



特攻花と伝えられる「天人菊」

がらも日々の生活（現実）をどう生きるかに腐心しています。つまり、日々の生活に埋没しているのが、私たち普通の人間の在りようだと思います。

しかし、原爆忌や終戦記念日という日だけは、少しでも立ち止まって、先の大戦で罪のない多くの命が奪われ、被爆者をはじめとして、今なお後遺症に苦しんでいる人々がいること、理不尽を承知で大切な命を捧げ、また失った人々がいたこと、そうした多くの方々の犠牲の上に私たちの今の生活や平和な世の中が成り立っているということに思いを致してみる必要があるのではないのでしょうか。（決して、無批判に特攻を美化する立場としてではなく。）

「秋天を差す語り部の指太し」(南九州市かわなべ青の俳句大会出品作品)

高校三年生の作。戦後70年の節目を念頭に作句。「語り部」については、特定の人物ではなく、戦争体験者を広くイメージしている。

石田秀輝先生による特別授業 7/17

学校便り6月(2)号でお知らせしましたが、7月17日に石田秀輝先生を講師にお招きして特別授業を実施しました。保護者・地域の方々にも参加をいただき、地域や環境のことについて生徒とともに学習しました。石田先生が沖永良部島で現在取り組んでいらっしゃるからお話が始まり、生物に見られるそれぞれの環境に適したからだのつくり、地球温暖化や食物連鎖による影響などの環境問題に関するお話に、子どもたちも興味深そうに話を聞いたり真剣に考えたりする様子が見られました。今回の学習を通して、様々な問題の解決には、自らが主体的に関わることが何よりも大切なことだと生徒たちは気付かされたようです。石田先生、貴重なお時間を本当にありがとうございました。



【生徒の感想から】

- 私が考えたこともないところまで疑問を持ち、環境について調べられていると聞き、自分も石田先生を見習って細かいところまで興味や疑問を持って生活したいと思いました。
- 石田先生の「土橋のことを20分間話せるようにする。」という言葉が心に残りました。私も20分間話せるように頑張りたいです。

1学期の学校評価 (職員・生徒に実施)

(青文字 3.5以上 赤文字 2.5以下)

【評価】		4…十分に達成できている	3…おおむね達成できている	2…あまり達成できていない	1…ほとんど達成できていない	職員	生徒
勉学 (知)	明確な目標をもって主体的に学習に取り組み、意欲的に発表、表現している。					3.0	2.9
	自宅学習の時間確保(1年120分, 2年150分, 3年180分)・質の向上が図られている。					1.9	2.5
	将来の目標をもち、自分の将来設計を立て、その実現に向けて努力している。					2.4	3.0
	各種検定・コンクール等に積極的に参加し、社会的自信を付けている。					2.9	2.1
	模範ノート・模範自宅学習帳の提示、話し合い活動・発表の仕方の提示、様々な人との交流学習などを行い、学び方が身に付くように工夫している。					2.9	2.6
	各種検査、テスト等の分析を生かして、個別の家庭学習課題を付与したり学習内容を工夫したりするなど個に応じた指導の充実を図っている。					3.0	3.6
	キャリア教育の視点から教育活動を見直すなどして生き方指導の充実が図られている。					3.2	3.7
	3年間を通じた計画的な進路指導が実施できている。					3.2	3.6
	ひおき学の充実や地域貢献活動の推進が図られている。					3.4	3.5
	研究授業を通じた実践的研究や校外研修への積極的な参加ができている。					2.9	3.9
礼節 (徳)	心の伝わる挨拶(五あいさつ)ができている。					3.0	2.8
	互いの存在を肯定的に受け止めようとし、誰に対しても公正、公平に接している。					2.9	3.1
	係活動や当番活動、生徒会活動に責任を持って取り組み、協力して活動している。					3.0	2.9
	身の回りの整理・整頓ができ、持ち物の管理ができている。					2.6	2.9
	朝・夕の合唱に意欲的に取り組み、大きく美しい声で歌っている。					3.0	3.7
	考え議論する道徳をめざした授業を実践し、授業における生徒の変容等を記録している。					2.8	3.3
	朝読書やビブリオバトル等の読書活動を充実させ、読書推進が図られている。					3.6	3.4
	構成的エンカウンターやアサーショントレーニング等を取り入れるなどして人間関係能力の育成に努めている。					2.8	3.3
	生徒指導や特別支援教育の実践について共通理解を図り、組織として対応できている。					3.2	3.8
	3つの時刻の定着や家庭のきまり(ネットワーク利用における我が家のルール・一家庭一家訓)の更なる意識化が図られるよう、保護者との連携ができている。					3.0	3.5
剛健 (体)	目標を持って体力づくり(朝のランニング、昼休みの運動等)や部活動(外部のスポーツ活動)に積極的に取り組んでいる。					3.0	2.8
	徒歩による登校や家庭での体力づくり(一家庭一運動)ができている。					2.5	3.1
	3つの時刻を守り、規則正しい生活を送っている。					2.6	2.9
	自分の健康状態を把握し、積極的に健康増進や疾病治療に努めている。					2.9	2.9
	災害や事故等への危機意識を持ち、安全に注意して行動している。					3.3	3.7
	ボランティア活動や地域行事に進んで参加している。					3.0	3.3
	生徒会が主体となって行う体育的行事、スポーツ大会等の場を設定し、生徒がスポーツや運動に親しんだり体力づくりに励んだりしようとする態度を育成している。					3.2	3.4
	学活や給食指導、生活点検等を通して、食事や睡眠の大切さを理解させている。					3.3	3.3
	災害や事故を想定した実際の避難訓練が実施できている。					3.7	3.8
	地域行事へ積極的に関わったり、地域や卒業生等の人材を活用したりするなど地域との連携を図っている。					3.3	3.5

1学期は、様々な教育活動が実施されましたが、どの活動も前年度の反省をもとに見直しをしたり、生徒の実態に応じた工夫を加えたりして非常に充実したものとなりました。そのようなことから、職員、生徒ともに全体的に良い評価になっていると言えます。2学期は、以下のような点を中心に改善を図っていききたいと思います。

勉学(知)

個に応じた学習指導やキャリア教育、ひおき学の充実が図られていくと期待しています。しかし、自宅学習の時間・質の向上に課題があります。学習時間を確保できるように家庭での過ごし方を見直すとともに、宿題以外の自主的な学習のやり方について再度指導していく必要があると考えます。

礼節(徳)

合唱や読書活動の充実が図られ、生徒指導や特別支援教育の組織的な対応、保護者との連携もとれていけると言えます。生徒会も呼びかけていますが、土橋中の良き伝統である心の伝わる挨拶が引き継がれていくよう、「五あいさつ」をさらに意識していく必要があります。

剛健(体)

実際の避難訓練の実施によって、生徒の危機意識や安全意識が高まっていると言えます。また、朝のランニングや昼休みの運動に取り組む生徒も増え、体力づくりへの意識が高まっていると言えます。一家庭一運動として親子縄跳びにも取り組んでほしいと思います。